

安全データシート

作成日 2018年 6月20日

改訂日 2020年 1月20日 1/4頁

SDS No.7510-11314

1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : MonoSpin L ProA
提供者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
製品コード : 7510-11314
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
整理番号(SDS No.) : 7510-11314
推奨用途及び使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 分類できない
GHS分類 : 分類できない
物理的及び化学的危険性 : 通常の取り扱いでは危険性は低い。
健康に対する有害性 : 皮膚に対する刺激性はほとんどない。粉塵が眼、粘膜に接触すると刺激作用がある。
長期暴露により、不快感、腹痛、下痢、吐き気等の症状が出る恐れがある。
環境への影響 : データなし
その他の情報 : 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に業務委託すること。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物

化学名(又は一般名)	含有率	化学式	官報公示整理番号	CAS RN
Pro A 結合型 モノリスシリカゲル	約3%	SiO ₂	設定されていない	設定されていない
保存液 (主成分は0.1%未満)	約97%	—	—	—

危険有害成分 : 特になし

4 応急措置

吸入した場合 : 新鮮な空気の場所に移動させ安静にし、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い場合には医師の診断を受けること。
皮膚に付着した場合 : 直ちにすべての汚染された衣類を取り除くこと。多量の水および石鹸で洗い流し
医師に連絡すること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合 : 粉塵が接触した場合、直ちにコンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量
の水で眼を洗う。シリカモノリスの破片が入った場合、こすると眼球を傷つける
恐れがあるのでこすらないこと。医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、うがいをすること。医師の手当を受けること。
ばく露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
急性症状及び遅発性症状の
最も重要な兆候症状 : 眼や皮膚、粘膜に接触すると刺激性がある。長期暴露により不快感、腹痛、下痢、
吐気等の症状が出る恐れがある。
応急措置をする者の保護 : 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水
- 火災時の特有危険有害性 : 火災によって刺激性、もしくは有毒なヒューム(またはガス)を発生するおそれがある。
消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 特定の消火方法 : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。
- 消火を行う者の保護 : 消火活動の際は、適切な空気呼吸器と化学用保護衣を着用する。

6 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 付近の着火源となるものを可能な限り速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
風上から作業して、風下の人を退避させる。
- 環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 飛散した物は、密閉できる容器に回収する。その後を多量の水を用いて洗い流す。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵を発生させない。
眼および皮膚への接触を避ける。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。

保管

- 技術的対策 : 容器は直射日光を避け、冷蔵庫(2~10℃)に密閉して保管する。
- 適切な保管条件 : 換気の良い場所で、日光から遮断すること。
- 混蝕危険物質 : 強酸化剤、強酸性化合物
- 安全な容器包装材料 : ガラス、プラスチック等(密閉できるもの)

8 ばく露防止措置

- 設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、局所排気装置を設置する。
取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
- 管理濃度 作業環境評価基準 : 設定されていない
- 許容濃度

内容物	日本産業衛生学会	ACGIH	OSHA
モノリスシリカゲル	(第3粉塵として) 総粉塵 8mg/m ³ 吸入性粉塵 2mg/m ³	設定されていない	(その他の粒子として) TWA 15mg/m ³ (総粉塵) TWA 5mg/m ³ (吸入性)
保存液	設定されていない		

保護具

呼吸器の保護具	: 保護マスク、防塵マスク
手の保護具	: 不浸透性保護手袋
目の保護具	: 保護眼鏡、側板つき保護眼鏡(必要によりゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣・保護長靴
適切な衛生対策	: マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。

9 物理的及び化学的性質

物理状態	: 固体(モノリスシリカゲル)、液体(保存液)
色	: 白色(モノリスシリカゲル)、透明(保存液)
臭い	: 無臭
融点/凝固点	: データなし
沸点/初留点/沸点範囲	: データなし
可燃性	: 不燃性
爆発限界(上限・下限)	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
溶解度	: データなし
オクタノール／水分配係数	
log Po/w	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度/相対密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: 該当しない

10 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 適切な保管条件下において安定
危険有害反応可能性	: 適切な保管条件下において安定
避けるべき条件	: 湿気、日光、熱、二酸化炭素、(カラムの破損による)粉塵の拡散
混触危険物質	: 酸性物質、酸化剤
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素
推奨用途及び使用上の制限	: 試験・研究用

11 有害性情報

急性毒性	: データなし
皮膚腐食性/刺激性	: データなし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	
	: データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データなし
生殖細胞変異原性	: データなし
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	
	: データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	
	: データなし
誤えん有害性	: データなし

1 2 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	: データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	: データなし
残留性/分解性	: 微生物による分解はされないと考えられる。
生態蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 本製品に含まれる物質は、モントリオール議定書の付属書に列記されていない。

1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4 輸送上の注意

国連番号	: 非該当
海洋汚染物質	: 非該当
注意事項	: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないこと確認する。 転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う

1 5 適用法令

毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: 非該当
化管法	: 非該当
化審法	: 非該当
消防法	: 非該当
船舶安全法(危規則)	: 非該当
航空法	: 非該当
海洋汚染防止法	: 非該当
水質汚濁防止法	: 非該当
大気汚染防止法	: 非該当

1 6 その他の情報

引用文献等

化学品安全管理データブック 化学工業日報社
16918の化学商品 化学工業日報社(2017)
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。